

決算特別委員会委員長報告

平成29年度決算認定議案は、一般会計と特別会計・企業会計の2つの特別委員会を設置し、審査を行いました。

一般会計決算特別委員会は、9月25日と26日の2日間、特別会計・企業会計決算特別委員会は9月25日に開催され、審査の結果いずれも原案のとおり認定すべきものと決定しました。また、10月4日の本会議において、両特別委員会の審査経過及び審査結果が委員長より報告されました。

一般会計決算特別委員長報告(抜粋)

委員長 窪野愛子

- Q 職員健康管理費について実証実験の成果は。
- A 実人数は時差勤務130人、テレワークは14人で一時的な介護の利用、時差勤務は子育てとの両立や夜間の会議やイベント等の利用で、多様な働き方に役立つことができました。
- Q 普通地方交付税は平成32年に合併算定替えによる加算額が終了する。今後の対策は。
- A 約5億2千万円の依存財源がなくなるため、公共施設マネジメントを含めた行財政改革を推進する必要があります。
- Q ファイナンシャルプランナー制度の活用は。
- A 相談件数は3件でした。滞納者の危機意識が低いことや、借金があり恥ずかしくて言えない等が件数の少ない理由です。今後、滞納前に相談ができるような体制を検討します。
- Q 中学生の広島市平和記念式典派遣事業は、内容を見直して、今後も継続したらどうか。
- A 事業は全ての学校を一回りしました。3年～5年で見直すことを前提としているため、全体の予算を考慮して前向きに検討します。
- Q 急患診療所は休日救急医療の患者が多く、10月に医療費制度が拡充されれば、さらに増える可能性がある。医師や看護師の負担を配慮する必要があるのでは。
- A 今年の年末年始の診察は、試験的に2日間を2診から3診に変更して対応します。医師会と協議しながら進めていくことを考えています。
- Q 動物死骸処理の委託内容については。
- A 磐田市の「磐田どうぶつ郷」に委託しています。犬や猫が1頭につき4千円、迷い犬の保護は、1日につき2千円で、保護期間は5日間です。

特別会計・企業会計決算特別委員長報告(抜粋)

委員長 山本行男

- 〈国民健康保険特別会計〉
- Q 1人当たりの医療費が5.7%伸びているが、費用額を抑える具体的取組みは。
- A 特定健診受診の呼びかけ、人間ドックの助成を行い「早期発見・早期治療」をめざし、医療費が伸びないように啓発をしていきます。
- 〈後期高齢者医療保険特別会計〉
- Q 年金収入が少ない方の保険料徴収方法は。
- A 基準額に満たない方および介護保険と後期高齢者医療合計で2分の1を越えた場合には口座徴収から普通徴収に切り替わります。
- 〈介護保険特別会計〉
- Q わたさき老人等介護者慰労金支援事業費の年々受給者減少は、市の在宅介護推進とは逆に在宅介護者が減少していることか。
- A 施設整備が進み、介護重度者は施設入所され、在宅介護が減少していますが、市の基本方針は在宅介護の推進です。
- 〈公共用地取得特別会計〉
- Q 旧公園服部用地は安価で購入したのか。
- A 土地の鑑定評価に基づき、購入しました。
- 〈掛川駅周辺施設管理特別会計〉
- Q 駐車場の料金設定を見直す考えはあるのか。
- A まちづくり株式会社への委託事業ですが、駅周辺の駐車場料金統一の検討をします。
- 〈簡易水道特別会計〉
- Q 大雨等により水道施設に被害が出た時に対応できているか。
- A 水源地周辺が崩れた時など、簡易水道会計の中で修繕し維持管理に努めています。
- 〈水道事業会計〉
- Q 有収率83.91%と前年度比0.63ポイント下がっているが、この数字をどのように捉えているのか。
- A 漏水が影響していると思われ、平成29年度から漏水調査を本管から給水管主体に強化し、有収率向上に努力しています。